

令和6年度 特別養護老人ホーム

サービス評価事業 報告書

一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

サービス評価事業委員会

【特別養護老人ホーム サンライフ御立】

＜サービス評価実施日：令和6年11月29日＞

施設の概要	施設名称等	特別養護老人ホーム サンライフ御立 〒670-0072 兵庫県姫路市御立東5丁目1-1 TEL 079-291-6666 FAX 079-291-6667 (URL) https://www.sasayurikai.or.jp/ (E-mail) s-mitachi.tokuyo@sasayurikai.jp 平成8年10月1日 開設
	施設長名	笹山 博司
	基本理念	1. 基本的人権の尊重 2. 健全育成・援護の実現 3. 社会的自立の助長 4. 地域福祉への貢献
	定員	100人
	居室	居室49部屋（1人部屋22室・2人部屋12室・4人部屋15室）
	併設事業	短期入所生活介護（介護予防含む） 通所介護支援（介護予防含む） ケアハウス
特徴的なサービス事例	・基本理念のもと、学べる環境があり、毎週の勉強会を始め、気持ちが前向きになるような取り組みを頑張っている。 ・サービス十か条の毎週の唱和や年に一度の記述や穴埋め形式テストを実施しており、理念やサービスに関して意識向上のため理事長、施設長を始め施設全体で日々努力をされている。 ・理事長による介護福祉士・介護支援専門員勉強会を毎週1回開催しており、高い専門性を学べる環境がある。 ・ICT化が進んでおり、記録には音声入力を採用することで外国人労働者の方でも記録が書きやすいなど働きやすい環境が整っている。 ・学ぶ環境、それを支える法人支援体制がある。 ・スマートフォン、タブレット、パソコンを利用した介護記録ソフトの運用を行うことで、随時の情報共有を図っている。 ・各職種間の業務分担、業務調整が細やかに管理されている。歯科衛生士による口腔管理、食事時には看護師、作業療法士も介助をしており、入居者の変化や状況に応じた対応が即時しやすい環境がある。 ・専従の歯科衛生士が勤務し、入居者の口腔衛生を保持している。 ・毎月一日は赤飯、十日はうな重、二十日は握り寿司の特別メニューに加えて季節のイベント時にはイベント食を企画し、入居者に喜ばれている。 ・個浴、リフト浴はマンツーマンで入浴しており、プライバシーへの配慮を行いながら、ゆっくりとした入浴が行えている。	

特徴的なサービス事例	・ QC 委員会を中心として、ケアの品質管理を行っている。 ・ 施設には、部屋を含むカメラ設置、AI センサーをスマホ・タブレットと連動させ、安全性の確保や記録時間の短縮など効率化を図っており、入居者の側にいる時間が増えるよう多様なアイデアと設備機器を活用し常に進化している状況が伺える。 ・ 介護福祉士、社会福祉士、栄養士、歯科衛生士などの実習生を受け入れている。 ・ クリスマス会では地域の保育園児や演歌歌手の訪問があり、家族と一緒に楽しめる行事も多数企画されている。 ・ 家族に対してこまめな情報提供も配慮されている。 ・ 看取りにも力を入れており、感染対策をしながら看取り期の方には別室を用意し、家族も自由に出入りできる環境を整え、入居者が安心し、家族の悔いが残らないように配慮している。 ・ 特養全体では、常に新しい機器やソフトを導入し、現場が働きやすい環境を整えている。 ・ 毎週土曜日の 9 時～12 時に理事長自らが講師となり、オリジナルのテキストを作成し、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得に向けた勉強会を開催している。 ・ 外部研修への参加も参加費の負担を行い、キャリアアップへの支援を行っている。 ・ 公認心理士を採用し、職員のメンタルヘルスケアに努めている。
施設全体の総評	開設から 28 年が経過する中で、理念の具体化に向けた取り組みを通じ、職員一人ひとりが施設の目的やあり方について共通の意識を持っている点が高く評価できる。また、看護師や歯科衛生士が日常のケアにも積極的に関わり、入居者の体調変化を早期に捉える体制が整っている点も印象的であった。 さらに、ICT 機器や AI センサーの導入によって記録や見守りを効率化し、音声入力活用によって外国人職員が働きやすい環境を整えるなど、他の施設に先んじ今後の生産年齢人口が減少する社会においても、質の高いケアを継続して提供できる、多様な人材を支える基盤が築かれている。 今後、先を見据えた先駆的な取り組みを行う施設として、多様化する福祉ニーズに応えるとともに、他施設の道しるべとしての役割を果たしていくことを期待する。
受け入れ施設による評価後のサービスの質の向上に向けた取り組み (1) サービス評価事業を受け、次年度につなげていきたい項目、課題について 1. 職員の業務負担軽減と業務効率化 ・ 介護業務の負担が大きいことが課題となっており、より働きやすい環境を整備する必要がある。 ・ ICT・DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用による業務改善が求められる。 2. サービスの均質化・ケアの質向上 ・ 職員によってケアのばらつきが生じることがあり、質の標準化が重要。 ・ 利用者様の個別ニーズに対応しながらも、統一されたサービス基準を確立する必要がある。 3. 利用者・家族とのコミュニケーションの強化 ・ 利用者様やご家族からのフィードバックをより積極的に収集し、サービス向上につなげる仕組みを構築する。 ・ 利用者満足度の向上につながる取り組みが求められる。	

4. 職員の教育・研修の充実

- ・スキルアップや意識向上のための研修を充実させ、職員の成長を支援する。
- ・新人職員への指導体制の強化や、ベテラン職員との連携を強める必要がある。

5. 職場環境の改善・定着率向上

- ・職員のモチベーションを高め、離職率の低下を目指すための環境整備が必要。
- ・ワークライフバランスの向上や、働きやすい職場づくりを進める。

(2) (1) の項目についての具体的な方法について

1. 業務負担軽減と業務効率化のための取り組み

- ・ICT・DXの導入（介護記録ソフト、見守りセンサー、音声入力システムなど）
- ・ルーチン業務の簡素化や、タスクの分担見直し
- ・非介護業務の一部を外部委託やパート職員の活用によって負担を軽減

2. サービスの均質化・ケアの質向上

- ・ケアマニュアルの整備と定期的な見直し
- ・ケースカンファレンスの実施を増やし、情報共有の強化
- ・利用者の個別ニーズを把握し、それを反映したサービス提供の仕組みを作る

3. 利用者・家族とのコミュニケーション強化

- ・定期的なアンケート調査を実施し、フィードバックをサービス改善に活用
- ・施設のLINE公式アカウントやアプリを活用し、家族との情報共有を円滑化
- ・施設内でのイベントや家族向け説明会の開催頻度を増やし、交流の機会を増やす

4. 職員の教育・研修の充実

- ・eラーニングやオンライン研修の導入による学習機会の拡大
- ・介護技術研修、リーダーシップ研修、認知症ケア研修などの強化
- ・OJT（On the Job Training）を活用し、実践的なスキルアップを支援

5. 職場環境の改善・定着率向上

- ・職員の意見を反映した働き方改革（シフト調整、休暇取得促進）
- ・メンタルヘルスケアやストレスチェックの定期実施
- ・キャリアパス制度の明確化と評価制度の見直し

これらの取り組みを通じて、より質の高いサービス提供と、働きやすい職場環境の実現を目指していきたい。